2019年度

都市景観大賞

受賞概要

都市空間部門

景観まちづくり活動・教育部門

「都市景観の日」実行委員会

都市空間部門　受賞地区一覧

大賞 国土交通大臣賞

地　区　名	地区面積	応　募　者
大分駅南地区 （大分県大分市）	約 49.6ha	・大分市 ・大分いこいの道協議会

優秀賞「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地　区　名	地区面積	応　募　者
江古田三丁目地区 （江古田の杜プロジェクト） （東京都中野区）	約 4.4 ha	・江古田三丁目地区まちづくり協議会 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 ・医療法人財団 健貢会 総合東京病院 ・積水ハウス株式会社
リビオ姫路大津のぞみ野地区 （兵庫県姫路市）	約 8ha	・のぞみ野団地管理組合法人 ・日鉄興和不動産株式会社 ・株式会社日鉄コミュニティ ・株式会社スピナ ・有限会社アーバンセクション ・横浜市立大学 国際総合科学部

特別賞「都市景観の日」実行委員会 会長賞

地　区　名	地区面積	応　募　者
新百合山手都市景観形成地区 （神奈川県川崎市）	約 37ha	・新百合山手街管理組合 ・新百合山手景観形成協議会 ・新百合山手公園管理運営協議会 ・川崎市
山中湖村平野 ゆいの広場ひらり周辺地区 （山梨県南都留郡山中湖村）	約 0.64ha	・山中湖村 ・富士急行株式会社 ・山中湖村デザイン戦略会議 ・東京大学 景観研究室 ・株式会社イー・エー・ユー＋株式会社文化財保存計画協会＋株式会社アルメック VPI ＋ SUGAWARADAISUKE 建築事務所株式会社＋株式会社馬場設計 ・平野旅館民宿組合 ・平野区会 ・一般社団法人山中湖観光協会 ・一般社団法人山中湖エコミュージアム推進事業団

総評

審査委員長　陣内　秀信

本年度は応募が 11 件といささか寂しかったが、我が国の景観づくりが広い範囲で展開している状況を示す興味深い多彩な内容が見られた。都心の駅前とその周辺の再開発、衰退気味の中心市街地の再開発、跡地利用の防災公園計画、既存の住宅地の建て替えによる戸建住宅、そして緑に包まれた集合住宅の街づくり。さらに既存の団地の再生計画、緑豊かな郊外での区画整理による景観形成、地場産業をモチーフとするユニークな街路演出、被災地の復興拠点としての広場づくり、湖畔の素材を活かした地域再生など、多様であった。

市長・行政がイニシアチブを発揮する大規模な都市空間づくりから、住民の参加を基礎に細やかなルールに基づき地道に景観づくりを実現する例まで、幅も大きかった。大きな緑地を創造するプロジェクト、森・里山を大事にする計画など、緑のテーマが多かったのに対し、水辺を舞台とするもの、伝統的な町並みを対象とするものが皆無だったのは残念である。

大賞の「大分駅南地区」は、日本離れした緑の大空間の軸線を見事に実現しており、市民が多様に使う魅力的な公共空間となっている光景は圧巻である。ランドスケープの質も高く、気持ちのよい環境を人々に提供しているのが素晴らしい。これを生んだ構想力と実現させた政治・行政力が大きく評価された。

次に高い評価を得て優秀賞となったのが、それとは対照的な「リビオ姫路大津のぞみ野地区」である。圧倒的な景観の美をもつ住宅地ではないが、路上、宅地内の植栽、建物と外構のデザイン等に実に細やかなルールが設けられ、草の根の民意の集結によって、調和とバラエティのある質の高い景観づくりがなされている点が評価された。

もう一つの優秀賞の「江古田三丁目地区（江古田の杜プロジェクト）」は、大きな森に隣接する土地のイメージを大切にし、緑溢れる質の高い環境を生んでいるが、若い世代にも開かれている点が好感を呼んだ。

なお、「山中湖村平野ゆいの広場ひらり周辺地区」は、古建築を再生するなど、景観資源を活かした魅力アップの活動が注目されたが、まだ途上にあり、今後の展開に期待して「特別賞」に選定された。また、里山の豊かな自然環境を活かし、平成の初めから長い時間をかけて都市景観の形成・保全の実績を積み上げてきた「新百合山手都市景観形成地区」にも特別賞が与えられた。

優秀賞　「都市景観の日」実行委員会 会長賞

江古田三丁目地区（江古田の杜プロジェクト）

所 在 地　東京都中野区

地区面積　約 4.4 ha

応 募 者　江古田三丁目地区まちづくり協議会、独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部、医療法人財団 健貢会 総合東京病院、積水ハウス株式会社

地区概要

当地区は、都営大江戸線新江古田駅から徒歩 10 分、中野区の北端、練馬区との区境に位置する。都心に近接した立地にありながら、緑豊かな江古田の森公園に隣接しており「都市の利便性」と「豊かな自然環境」を兼ね備えた地区である。元々の樹木を保全しつつ、新たに地区外周を縁取るように植栽し、「緑のリング」を形成している。また、地区中央を縦に結ぶ「緑の軸」となるプロムナードは、歩道状空地と一体的に整備され、リブインラボ等のコミュニティ施設から賑わいを感じる通りとなっている。さらにプロムナードは、地区が東京都の広域避難場所にも指定されていることから、地区の南側からの避難路としての役割も担っている。公募時に、まちづくりガイドラインにより統一的な街並みを担保しつつ、事業者決定後、計画段階からまちづくり協議会を設立することで、綿密な外構・インフラ調整を行った。また、協議会の中で運営体制の検討を行ったリブインラボ協議会が平成 30 年 9 月に発足している。住民が地区に愛着を持ち、よりよい景観を維持するための仕組みとして、エリアマネジメントを活用し、賑わいのある風景、親しみが感じられるコミュニティづくりが始まっている。

審査講評

当地区は住宅密集地が広がる江古田にリング状の特徴的な緑地帯と連携し、土地交換の手法で誕生した都市再生プロジェクトである。開発コンセプトに掲げた「多世代により育まれる持続可能な地域」を旗印に、自然や緑の継承、多様なコミュニティの実現、健康・医療の幅広い取り組みがまちづくりの大きな柱となっている。住宅は分譲と賃貸からなり幅広い世代や学生、医療従事者など様々な住まい方に対応した構成となっている。小児緊急医療に特化した病院及び付属施設など地域への貢献度も高い。従前の地形や既存種を大切にした整備指針は 250 本以上の緑の保存、移植につながり、この地区ならではの景観が実現している。企画、情報発信、管理運営などのエリアマネジメントの中身も充実しているようだ。中心に位置するリブインラボとゆりの木広場は地区内外の人たちの活動拠点として大きな役割を果たしている。豊かな緑と佇まいのよい建築は勿論のこと、場の活力や住民の交流を育むマネジメントも高く評価することができる。（富田）

当地区は、中野区北端、練馬区との区境に位置し、江古田の森公園に隣接している。リング状の緑地帯が形成されている。

継承の丘。A街区西側の遊歩道。この地で育った既存樹や、多彩な緑を植栽。

プロムナード。地区南側からの避難路としての役割も持つ。右側歩道（区道）と左側歩道状空地で舗装等設えを統一。

地元 NPO の子どもたちを中心に、多世代の方の交流イベントとなったまちびらきイベント。

出典：国土交通省HPより